



**"値幅を根こそぎ取る非常識な
ボリンジャーバンド手法"**

著者

ベーシストFX手法研究家Kou

著作権について

- ・このレポートは著作権法で保護されている著作物になります。
- ・著作権はベシストFX手法研究家 Kou に属します。このレポートの開封によって以下の点に同意した事になります。ご注意ください。
- ・あなたが、このレポートに含まれる情報を、著者の許可を得ずに出版・メディア発信等で一般に公開することを禁止します。特に当レポートを第三者に渡すことは厳しく禁止します。
- ・当レポートの情報は作成時の著者の見解です。著者は事前に断りなく、情報の最新化、訂正を行う権利を有します。
- ・当レポートを利用し、生じた結果について損失が発生しても著者は一切の責任を負いません。あらかじめご了承ください。

目次

- 1章 ボリンジャーバンドについて
- 2章 基本的な使い方
 - 2-1 ボリンジャーバンドの特徴
 - 2-2 相場の勢いを見る方法
- 3章 ボリンジャーバンドのエントリーパターン
 - 3-1 ミドルバンドでエントリー
 - 3-2 エクспанションでエントリー
 - 3-3 $\pm 1\sigma$ のエントリー
 - 3-4 逆張りが有効なエントリー
- 4章 決済方法
 - 4-1 勢いによるもの
 - 4-2 バンドウォークの終了
 - 4-3 ミドルライン割れ
- 5章 勝率を高める方法
- 6章 リスクリワードを高める方法
- 7章 値幅を根こそぎ取る非常識なボリンジャーバンド手法

7-1 インジケーターの設定

7-2 オシレーターの設定

7-3 こんな簡単でいいの？1時間足だけで環境認識する方法

7-4 機会損失を減らすエントリー方法

7-5 メンタルに左右されず利益を伸ばし続ける方法

7-6 常に収益を残す決済方法

7-7 減らす方が難しい！明確なリスク管理と資産の増え方

7-8 早く稼げるようになるためのアドバイス

8章 元々の使い方

9章 手法のまとめ(必ず読んで！！)

10章 最後に

1章 ボリンジャーバンドについて

ボリンジャーバンドは、アメリカのジョン・ボリンジャーさんが発案したもので値動きに標準偏差を当てはめたものです。

標準偏差(シグマ: σ)は平均値の平方根を取ったもので、平均値のバラつきを示します。

つまりボリンジャーバンドは、

移動平均線±標準偏差(価格のばらつき)

を示します。

また標準偏差の値の1~3倍に対して収まる確率があって、

- ・1 σ に収まる確率:68.3%
- ・2 σ に収まる確率:95.5%
- ・3 σ に収まる確率:99.7%

となり、各バンドより外側にレートがある場合は

「非常に高確率でバンド内に戻る」ので、逆張りに用いると良く言われますが、「**ボリンジャーバンドはトレンド指標です!**」

ただし逆張りが有効な時もあるので、後述しますね。

2章 基本的な使い方

2章から6章まではボリンジャーバンドの一般的な使い方について説明します。

あくまで基礎知識として必要な事なので、

- ・ボリンジャーバンドを使った事がない。
- ・使ってみたいけどよくわからない。
- ・使っているけど全然勝てない。
- ・勝てるときもあるけど資産が増えない。

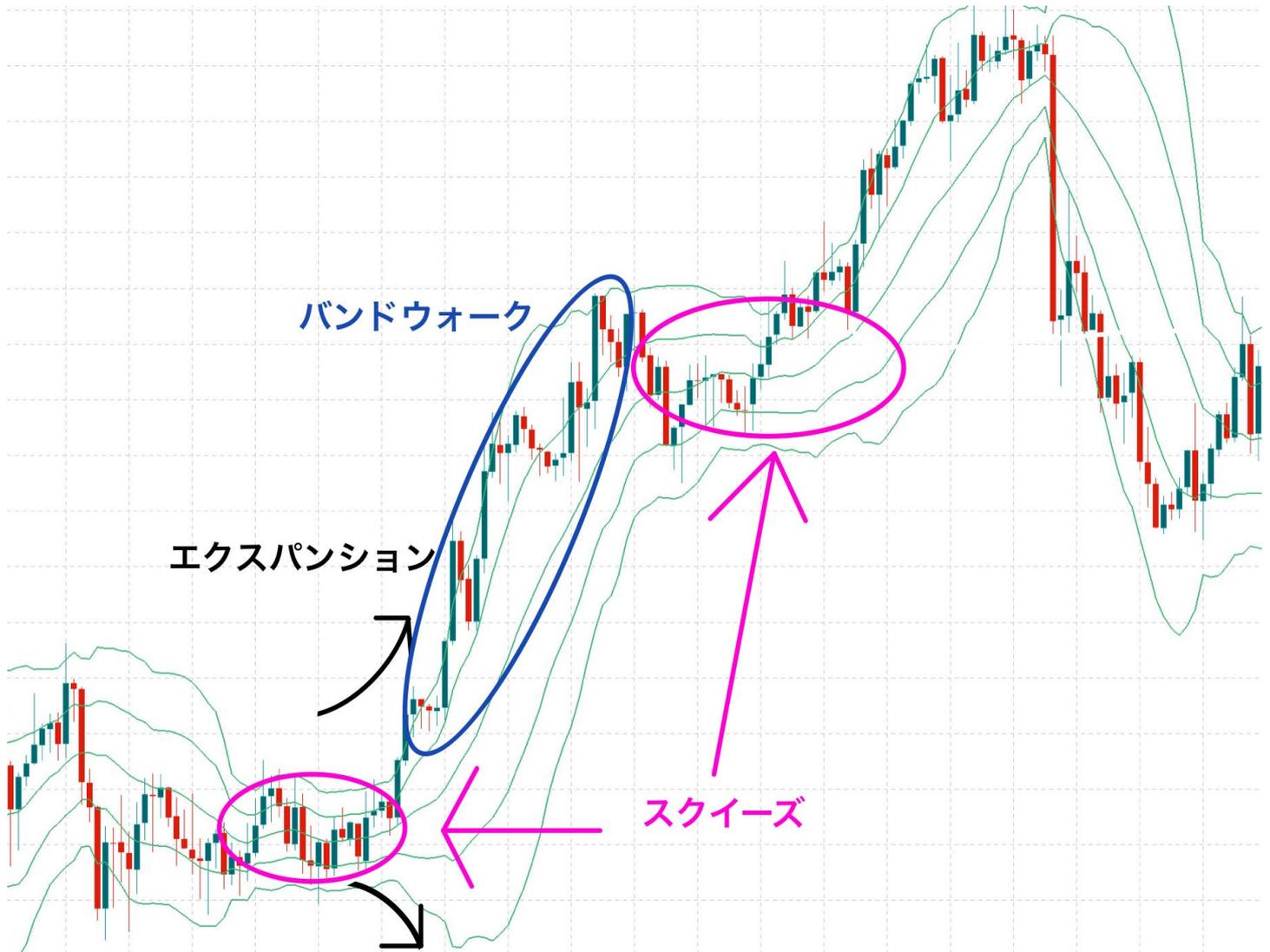
という方は、まず基礎をしっかりと身に付けて下さいね。

正直、ここから6章までを理解し、自分に合った方法を探すだけで
確実にトレードが改善されます。

2-1 ボリンジャーバンドの特徴

ボリンジャーバンドには特徴的な動きが3つあります。

以下のチャートを見て下さい。



1. スクイズ

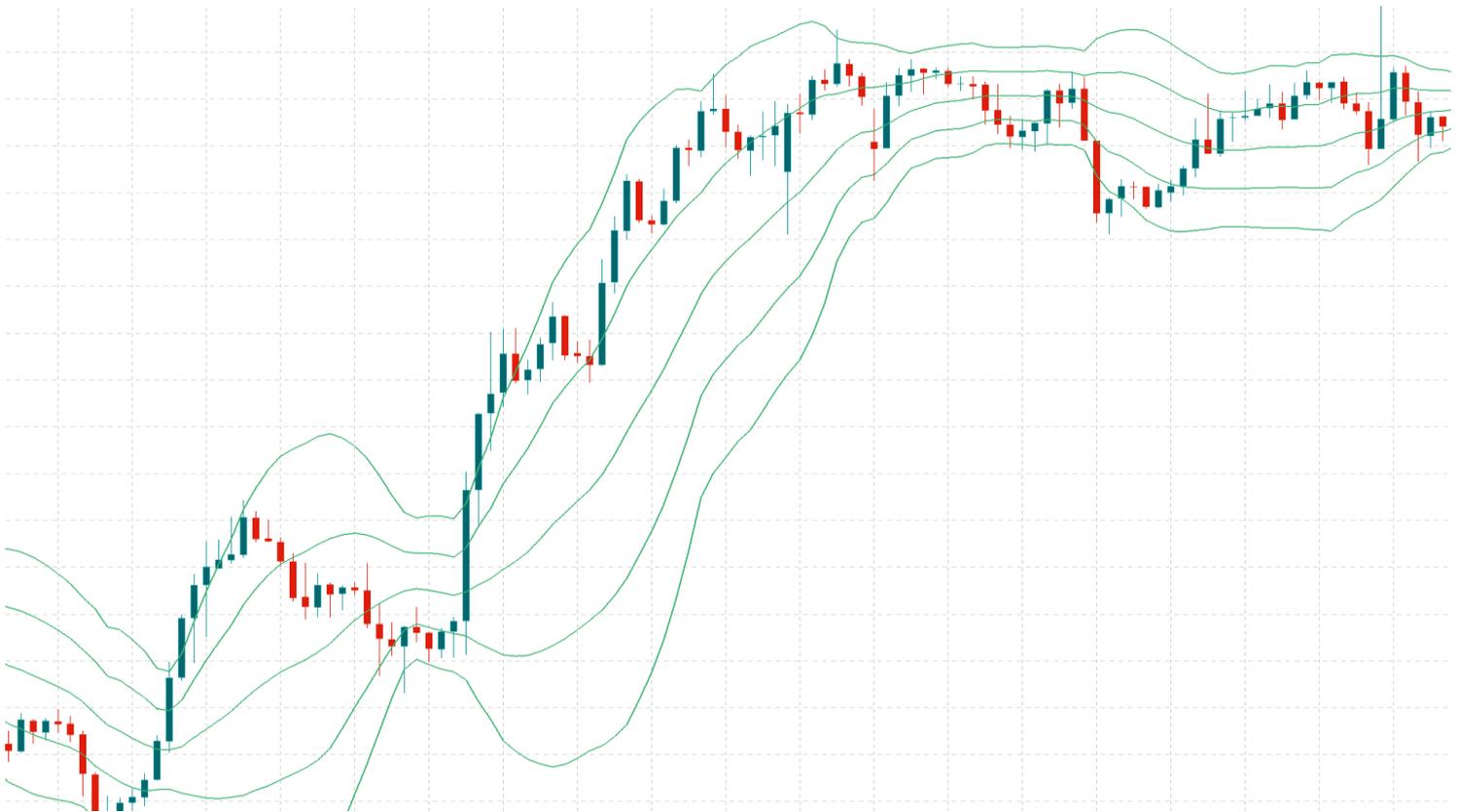
→バンド幅がそれまでより狭くなり、値動きが小さい相場状況。

トレードに不向き。

2. エクспанション

→スクイーズ後にバンドが外に向かって広がり、相場に勢いが出始めた相場状況。

今回の手法で非常に重要です。



3. バンドウォーク

→エクспанション後に出現して+1~+2σ間や、-1~-2σ間をローソク足が行ったり来たりする状況。

トレードで稼ぎやすい場所です。

ただし下のチャートのように、はっきりと**エクspansionしないバンドウォーク**の場合もあります。

トレンドは発生していますが、**他の根拠と合わせないとトレードしにくい**です。



バンドウォークの時には、**エクspansionしているかどうか？**
も意識して見て下さいね。

- ・スクイーズ
- ・エクспанション
- ・バンドウォーク

この3つは必ず一連の流れとして現れます。

3つの言葉を知らないなら、しっかり覚えて下さいね。

2-2 相場の勢いを見る方法

そもそも勢いという概念が曖昧ですが、いくつか例をあげると

【勢いが強い】

- ・インジケーターの傾きが急
- ・トレンドラインの角度が急
- ・高値の更新幅が大きい
- ・エリオット波動の 3 波目
- ・オシレーターで買われ過ぎ、売られ過ぎ継続中

【勢いが弱い】

- ・インジケーターの傾きが浅い
- ・トレンドラインの角度が浅い
- ・高値の更新幅が狭くなってきた
- ・エリオット波動の 5 波目
- ・オシレーターが反転

まだまだたくさんありますが、人によっては捉え方が違うのでこの考えだけでは判断が付きにくい事があります。

しかも一通り上昇や下落が起こった後でなければ、勢いがあったかどうか分かりません！

「勢いが強い」

ではなく、

「勢いが強かった」

という後付けにしかありません。

実際にトレードで利益を上げるなら、これから勢いが出る所を狙わなければなりません。

でも、これから勢いが出そうな所って分かりますか？

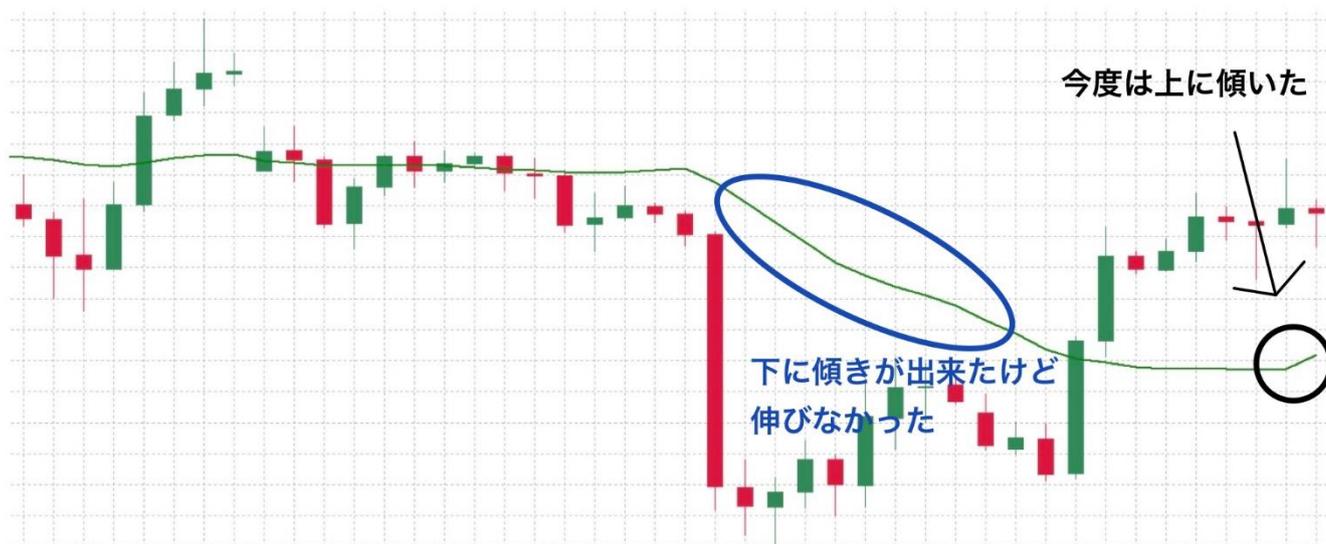
例えば、移動平均線で勢いが出る前は

先端に傾きがあるかどうか？

しかわかりません。

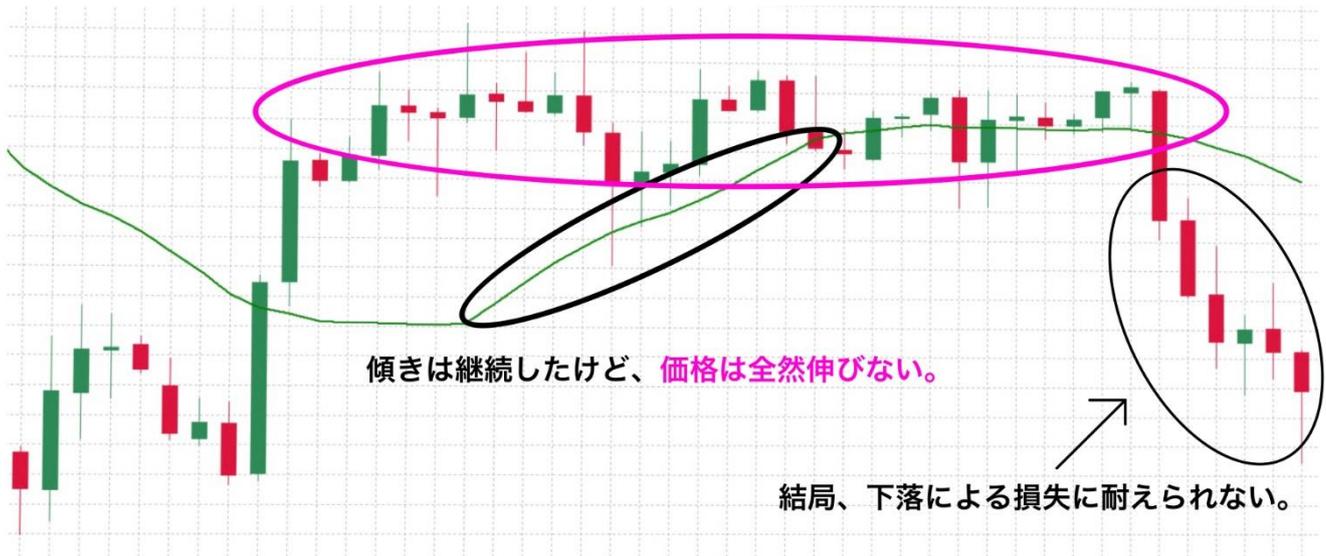


傾きが出来たからといって何となくトレードしても、



伸びない事もよくあります。

しかもすぐに傾きの方向が変わって、目先の値動きばかり狙っていたら



反対方向の動きにやられて損切り。

じゃあ今度は、先端の傾きは無視してある程度傾きが出来上がってから、傾きの方向へトレードを考えようとしても、



きちんと環境認識して伸びる場所が分からなければ、



結局、逆行した時の値動きで損切りになったり、エントリーのタイミングを見つけれなかつたりします。

他のインジケーターやラインでも同じです。

結局は後付けにしかならないです。

ならどうすれば、

後付けにならずに今現在の相場の勢いを判断出来るのか？

それは、

「ボリンジャーバンドがエクспанションしているかどうか？」

を見れば簡単に分かります。

今さっきと同じチャートですが、勢いが無くなっているのが分かるので、前もって買いポジションを持っていたら、これ以上伸びる可能性が低いのが簡単に分かります。

ボリンジャーバンドが閉じて勢いが無いのが分かる。



このように、移動平均線の傾きだけでは分からない事がエクспанションを見れば、今現在の相場に

- ・勢いが出ているか？
- ・勢いが出てないか？
- ・伸びそうか？
- ・伸びなさそうか？

を簡単に見極められます。

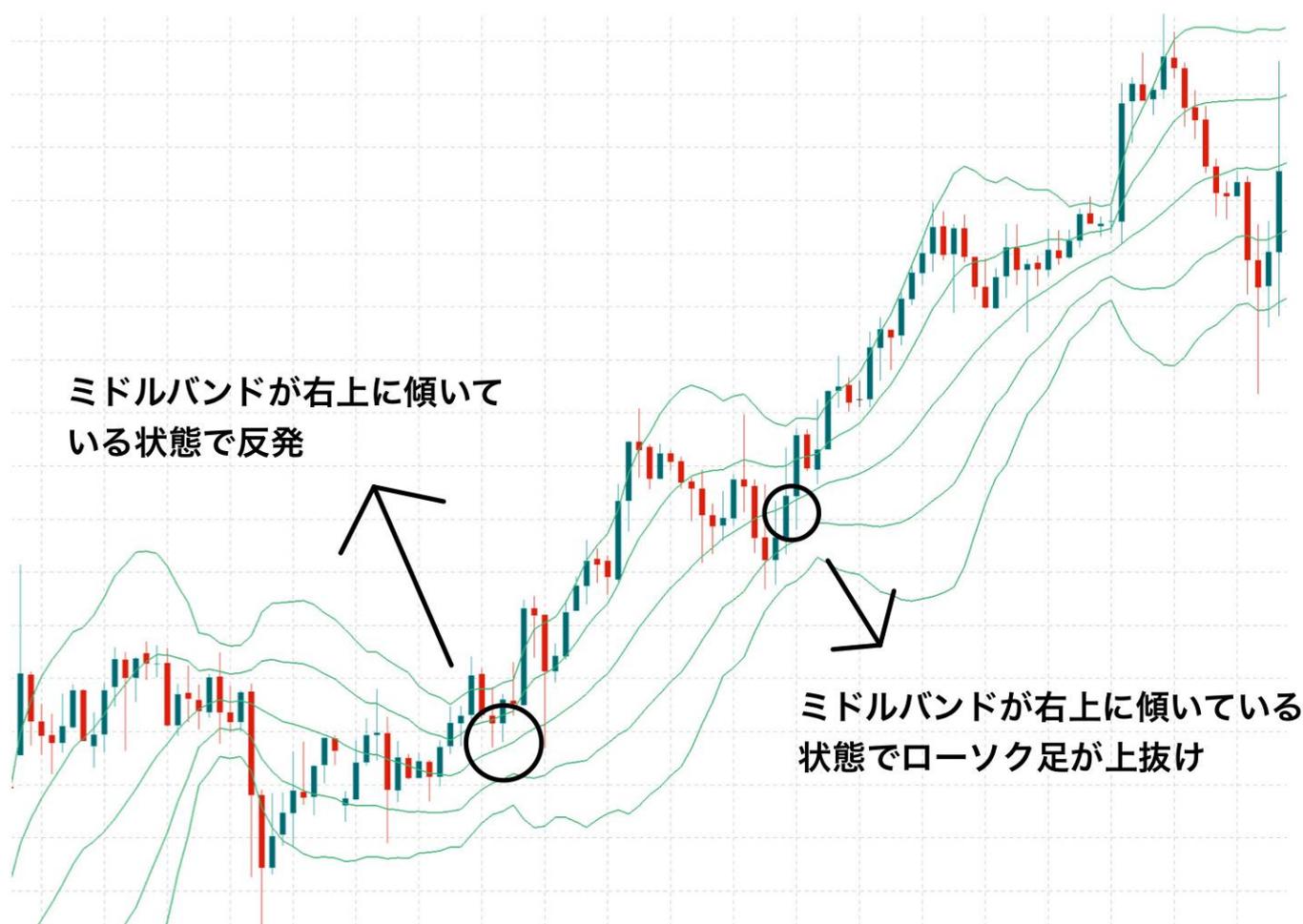
きちんと勢いが出ている時にトレードすると勝率が上がり、短時間で伸びるので稼げますよ！

3章 ボリンジャーバンドの エントリーパターン

3-1 ミドルバンドでのエントリー

ミドルバンドは移動平均線と同じなので、移動平均線によるグランビルの法則を使ってエントリーが可能です。

下のチャートのように、



ミドルバンドに傾きがある状態で、

ミドルバンドでの反発やクロスがエントリーのタイミングになります。

この移動平均線とローソク足との関係をグランビルの法則と言います。

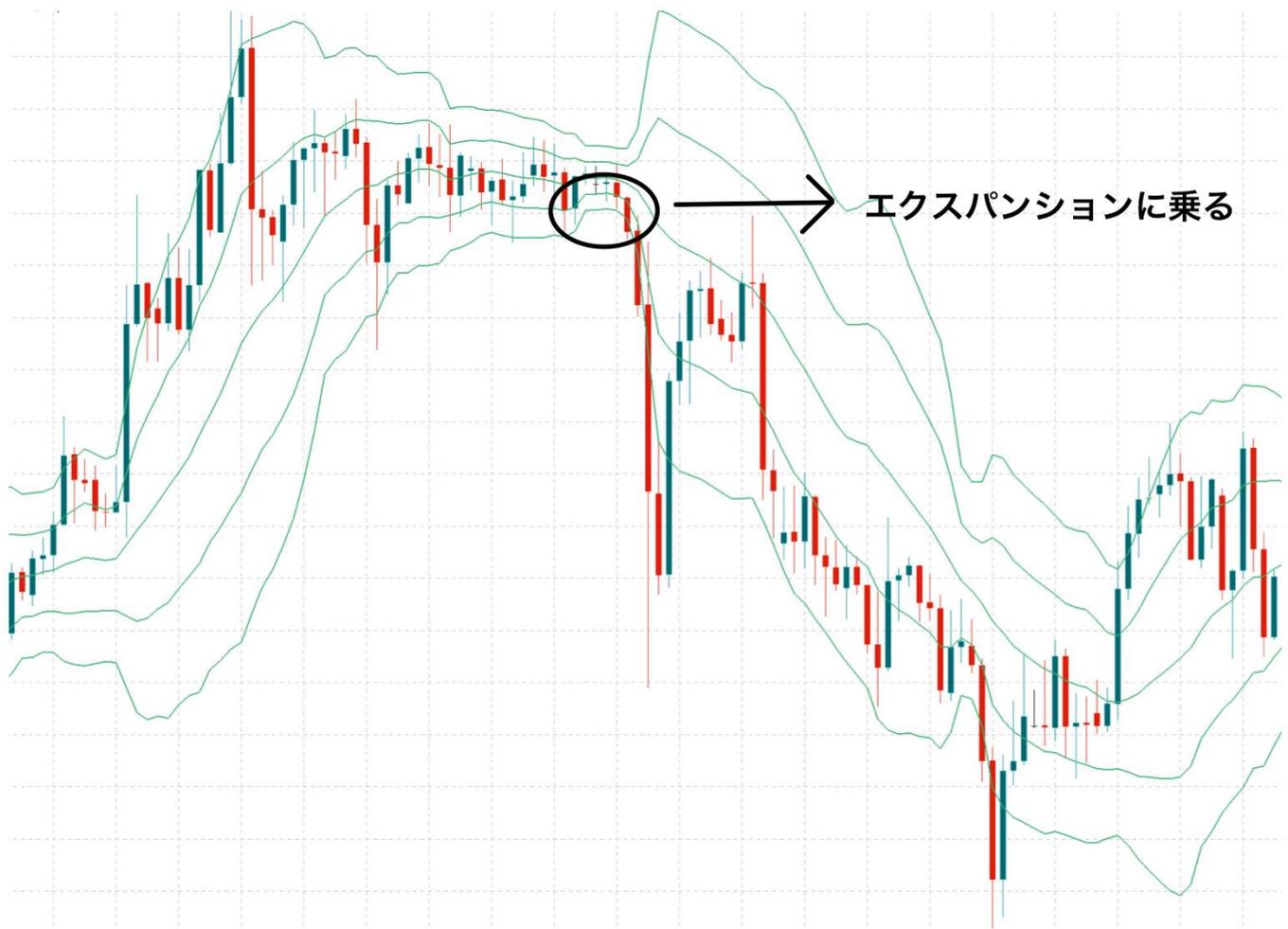
グランビルの法則は基本ですがとても大切な考え方なので、しっかり腑に落として下さい。

グランビルの法則を知らなければ、必ず読みましょう！

<https://fxshuhou.com/granville/>

3-2 エクспанションでエントリー

ボリンジャーバンドのエクспанションが発生し、相場に勢いが出るタイミングに乗っていくパターンです。



エクspansionが発生した時は、エクspansionに飛び乗らず、
3-1のようなミドルバンドでのグランビルの法則がよく出現します！

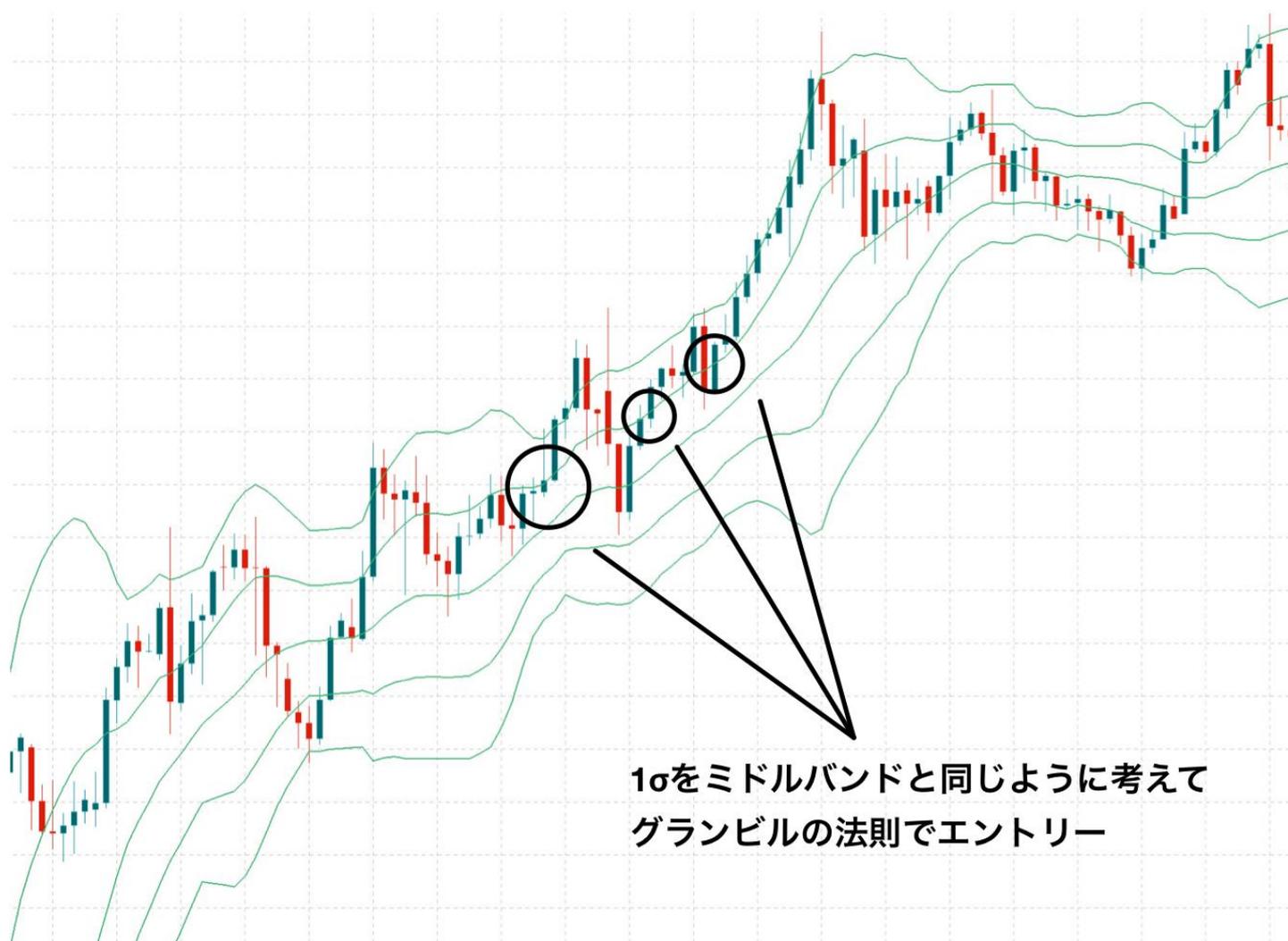
なのでエクspansion後の戻しを待って、押し目買いや戻り売りをするパターンも有効です。



3-3 $\pm 1\sigma$ でエントリー

バンドウォーク時に $\pm 1\sigma$ を移動平均線と同じように考えてグランビルの法則を使います。

ボリンジャーバンドに傾きがある事が絶対条件です。



ダラダラとバンドウォークする時より、しっかりとエクспанションが発生した後の方が高勝率です。

ボリンジャーバンドに傾きがあり、エクспанションが発生した後の $\pm 1\sigma$ でグランビルの法則が発生すればエントリーする価値があります。

このパターンの場合にはバンドウォークが終了した時点で決済して下さい。

3-4 逆張りが有効なエントリー

一般的なFXの本にはボリンジャーバンドは逆張りに使えて、

+2 σ タッチで売り

-2 σ タッチで買い

と良く言われます。

が、

基本的にやってはいけない事です。

でも、

次のチャートのようにボリンジャーバンドがスクイーズ中は実際に機能します。



じゃあ、どのタイミングでレンジが発生するのか？

これが分からないですよね。

そろそろレンジになると思ったらトレンドが継続した。

というように、考え無しで

・+2σタッチで売り

・-2σタッチで買い

を繰り返すと、

たまたま利益を積み上げられる時があっても、普段からしっかりした根拠を持っておらず、損切りが身に付いていなければ**一度の失敗で資産の全てを失くす可能性があります。**

でも安心して下さい。

レンジになりやすい場所、なりにくい場所というものが存在します。

簡単に言うと、

過去にレンジになった付近はレンジになりやすいです！！

下のチャートは一例ですが、このような動きはよく見られます。

しっかり確認してくださいね！



黒○やピンク○の所でレンジが発生しています。

このチャートが進んでいくと下のチャートのように、



黒○やピンク○と同じ価格帯で、
同じようにレンジになっています。

レンジが発生しやすい場所では逆張りをしても大丈夫です。

さらに、逆張りの勝率を上げる方法を教えますね。

まず、逆張りって何でしょう？

逆張りという表現をするから勘違いが生まれて、変なタイミングで変なポジションを持ってしまいます。

どういう事かと言うと、

一般的な逆張り、

- ・相場が上昇している時に売りポジションを持つ。
- ・相場が下降している時に買いポジションを持つ。

という事を指しますが、

本来は、

- ・相場が上昇している時に -2σ タッチで買い。
- ・相場が下降している時に $+2\sigma$ タッチで売り。

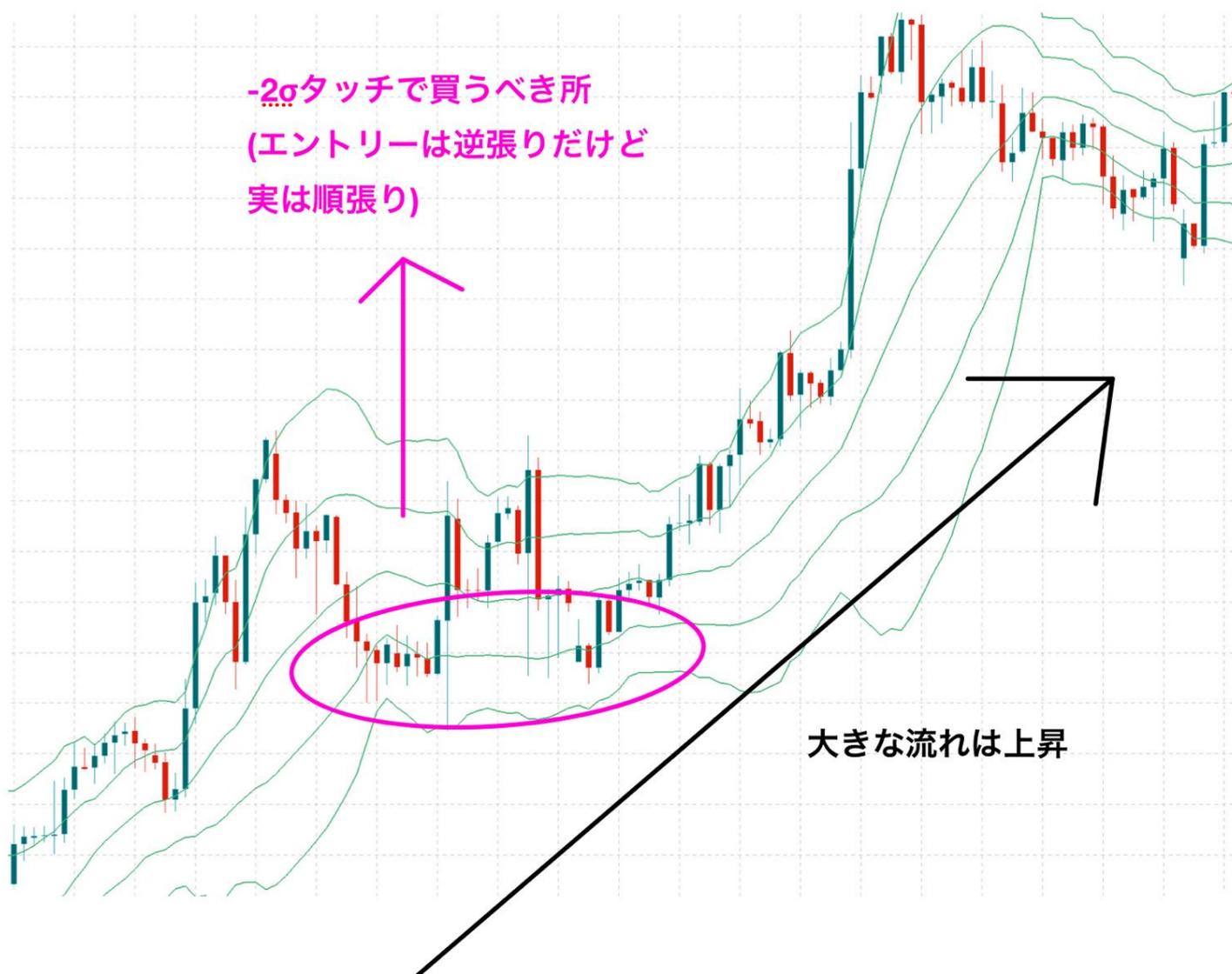
というふうに、

相場の大きな流れの方向に対して一時的に反対向きのポジションを持つ事です。

つまり、逆張りは

押し目買いや戻り売りの事です。

同じチャートで説明すると、



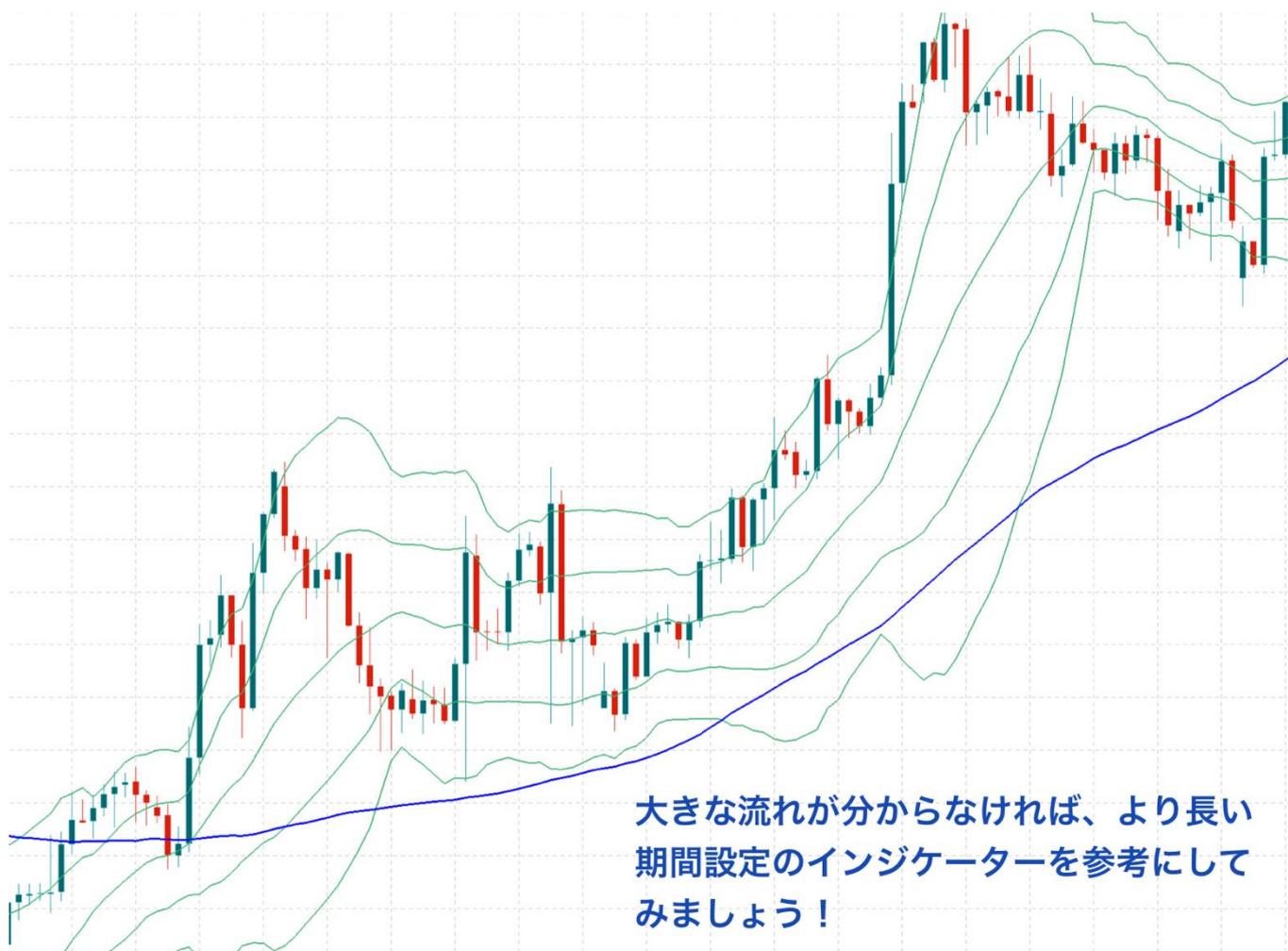
大きな流れが上昇なので、

+2σで売りはダメ！

-2σで買う所！

このように、スクイーズしている場合にエントリーするなら、

より上位足の方向を考えて、その方向にのみエントリーを絞るようにすると勝率を上げられて、値幅も取る事が可能になります。



大きな流れの方向に沿ってトレードするという考え方は非常に基本的な事です。

でも守れていない人も結構多いです。

エントリーの回数より、エントリーの精度の方が大切です！！

まとめると、

ボリンジャーバンドが横ばいだから何となく逆張りをするのではなく、それより上位足の流れに向かって逆張りする！(本来の順張り方向)

と考えて下さい！

基本ですが、とても大事な考え方になるのでしっかり腑に落として下さいね！！

これを意識するだけで、放置しておいても気付いたら価格が伸びている事が良くありますよ。

4章 決済のパターン

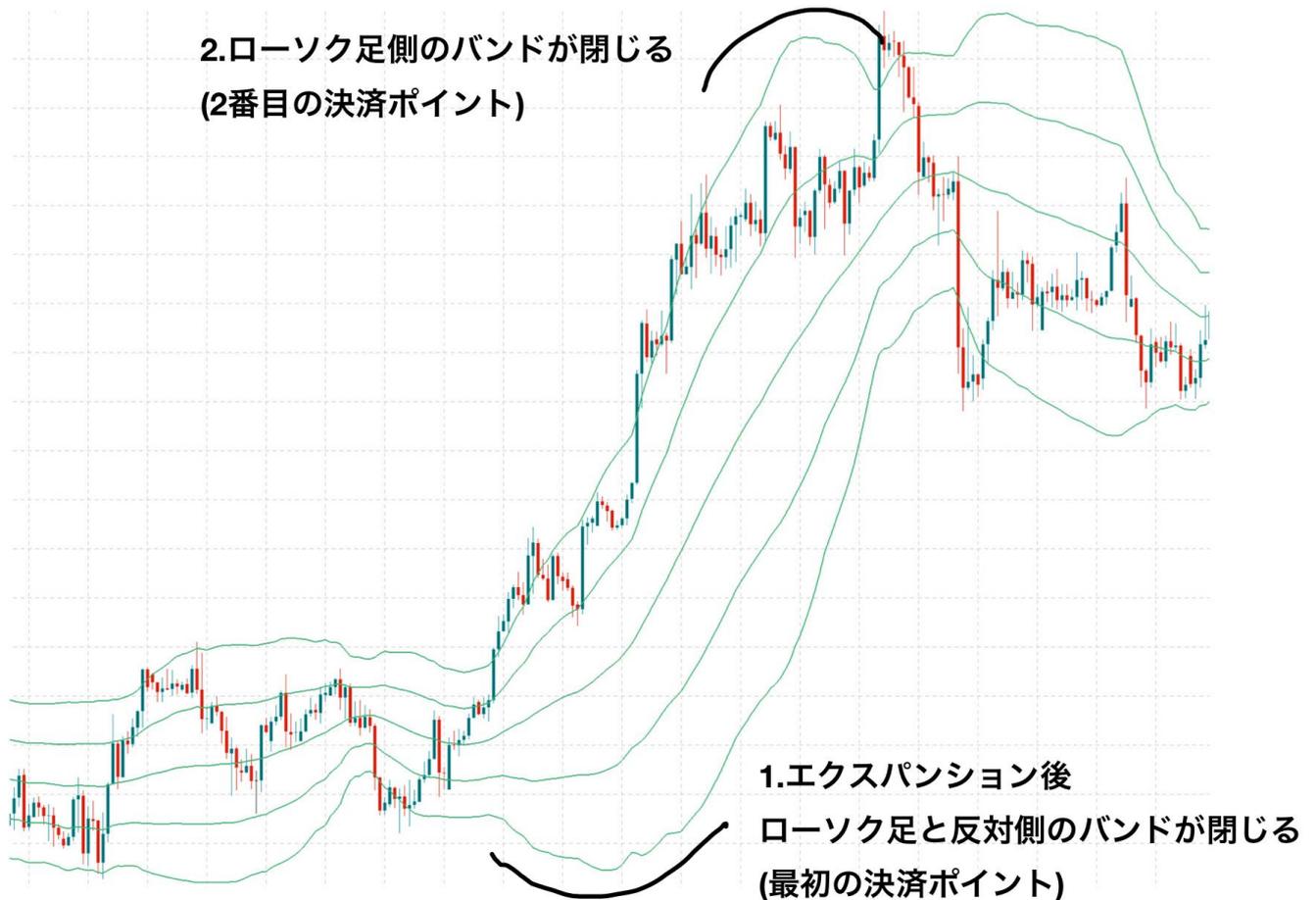
4-1 勢いによるもの

ボリンジャーバンドのエクспанションには、勢いがなくなる時に必ず以下の動きが起こります。

【上昇トレンドの場合】

1. エクспанションの後に下側のバンド(-2σ側)が閉じる。
2. その後上側のバンド(+2σ側)が閉じる。

これらの動きを、勢いが弱まってきたと判断して決済に使用します。



1つ目の物はエクspansionが終了する動きなので基本的には無視します。

2つ目で決済や、もしくは条件が整えばまだポジションキープする事で出来る限り利益を伸ばせます。

スキャルピングでトレードする方は2番目の決済ポイントで決済すれば、少ない値幅ですがほぼ確実に取りに行く事が可能です。

更に伸ばす方法は7章で後述します。

4-2 バンドウォークの終了

先ほどの2つ目の決済ポイント(ローソク足側のバンドが閉じる)の後に、 $+1\sigma$ を割ってくると、決済注文が入りやすくなるので、下がる前に手放すというものです。

ちょっと分かりにくいので、もう1度言います。

勢いが無くなって来たタイミングでバンドウォークが終了すると決済です。

上昇時は $\pm 1\sigma$ 割れで決済。下降時は -1σ 越えで決済です。

決済したからといって、すぐ反対方向にエントリーはしないで下さい！

このタイミングはあくまで決済と考えて下さい。

買いポジションを決済した場合は、すぐ売りポジションを持つのではなく、押し目買いを待って下さい！！

4-3 ミドルバンド割れ

この方法は移動平均線と全く同じで、
上昇時にミドルバンドを割れば決済。
下降時はミドルバンドを超えたら決済します。



ただし、
この決済方法についてはあまりおすすめしません。

上昇トレンドの場合にエクспанションでのエントリー(+2σという高値超えエントリー)は、

価格の高い所でエントリーしているので、決済も早めにしないと利益を残しにくいからです。

この決済方法をするなら、エントリーに関してもなるべく安い所から買えるように工夫すべきです。(-2σタッチで買う等)

ミドルバンド割れは、あくまで決済方法の1つとして認識して下さい。

5章 勝率を高める方法

ボリンジャーバンドで一般的に勝率を高めるためには、
マルチタイムフレーム分析で相場の勢いを判断し、
勢いの出ている方向に勢いの出ている間だけトレードをする。

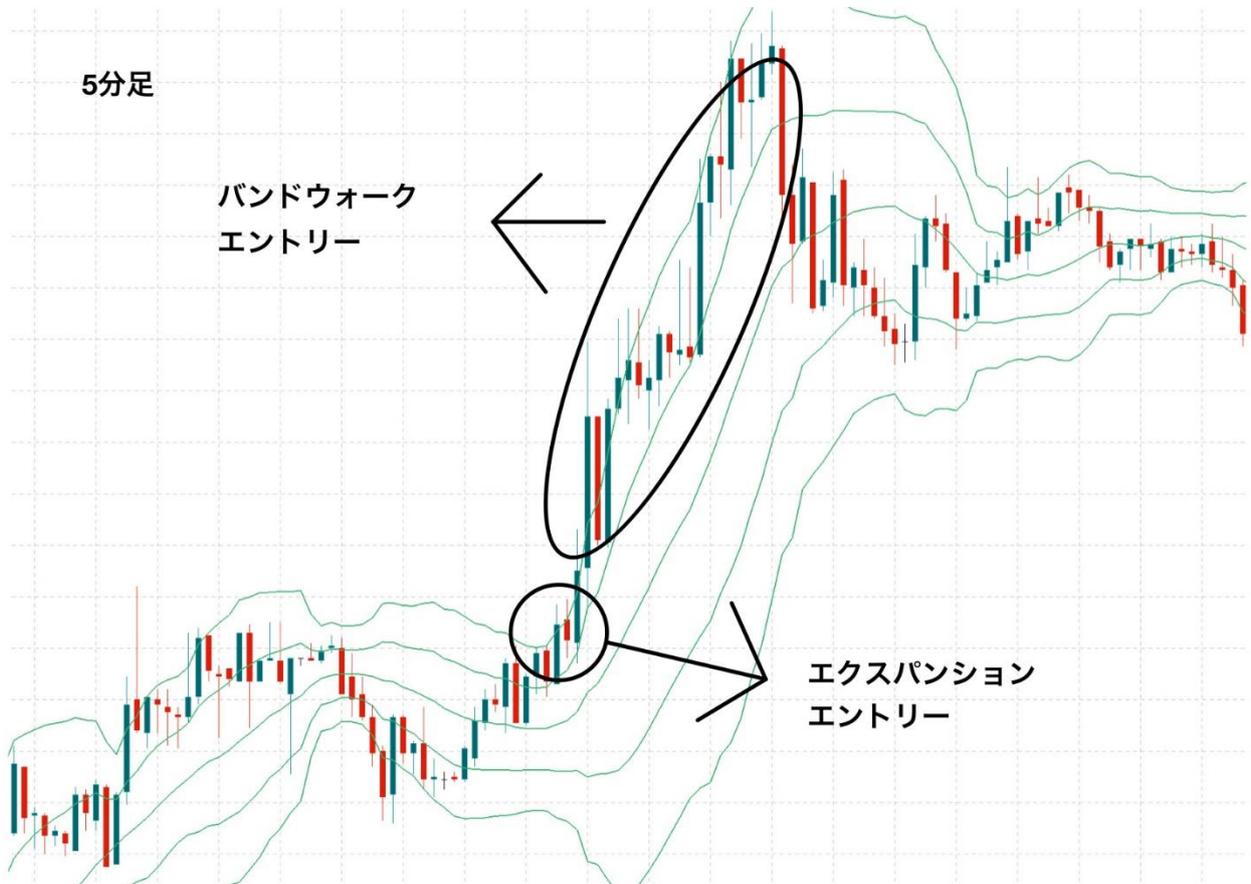
これだけで格段に勝率が上がります。

例えば5分足でトレードをしている人なら、
1時間足で上昇トレンドが発生中に5分足での上方向へエクспанションやバンドウォークでエントリーしてスクイーズが始まれば決済。
といった具合です。

1時間足



5分足



こんなトレードでも

マルチタイムフレーム分析をきちんと行い、

上位足の方向に伸びるタイミングでトレードすると、

数 Pips 程度でも安定して、確実に取ることは可能です。

ただ、トレード足が短いものになるとチャートに張り付かなければなりませんし、目先の値動きにメンタルを左右されやすくなります。

メンタルが崩れると、大切なお金がどんどん無くなります。

このようなスキャルピングをする場合は、事前にしっかりとルールを決めてきちんと守る必要があります。

上位足の方向に沿ったトレードは、一時的にはほぼ間違いなく伸びるので、

利益を伸ばさず確実に決済して利益を積み上げ続けられ、数 Pips という少ない値幅でもしっかり稼ぐことが可能です！！

6章 リスクリワードを高める方法

リスクリワードを高める方法は2つあります。

・1つはリスク(損切り幅)を減らす方法。

・もう1つはリワード(利益幅)を伸ばす方法。

この為には、勢いが継続し続けている限りポジションをキープし続けて利益を伸ばし、

損切り位置はダウ等を根拠にしてトレールさせて行けば損切り幅は狭く出来ます。

リワードを伸ばす時は、何となく伸びるかも？でポジションをキープするのではなく、**伸びる余地があるからキープします。**

逆に伸びる状況じゃ無くなった時点で損が出ているのであれば損切りしたり、薄利であっても決済して下さい。**必ずです！**

★ダメな例

損切幅を狭くしたいからといって、

損切幅を固定〇〇pipsとか、

少し伸びたら損切りを建値に移動。

みたいに何となくトレールさせるのはもってのほかです！！

書籍で、ドル円は損切幅 10Pips、ユーロやポンドは値幅が大きいので 15Pips とか書いてあるものがありますが、

あり得ません。絶対にしちゃだめですよ！

具体的なリスクリワードを高める方法は 7 章で後述しますね^^

7章 値幅を根こそぎ取る非常識な ボリンジャーバンド手法

ここからがこのレポートの本題です！

6章までの内容はボリンジャーバンドの使い方を噛み砕いたものですが、

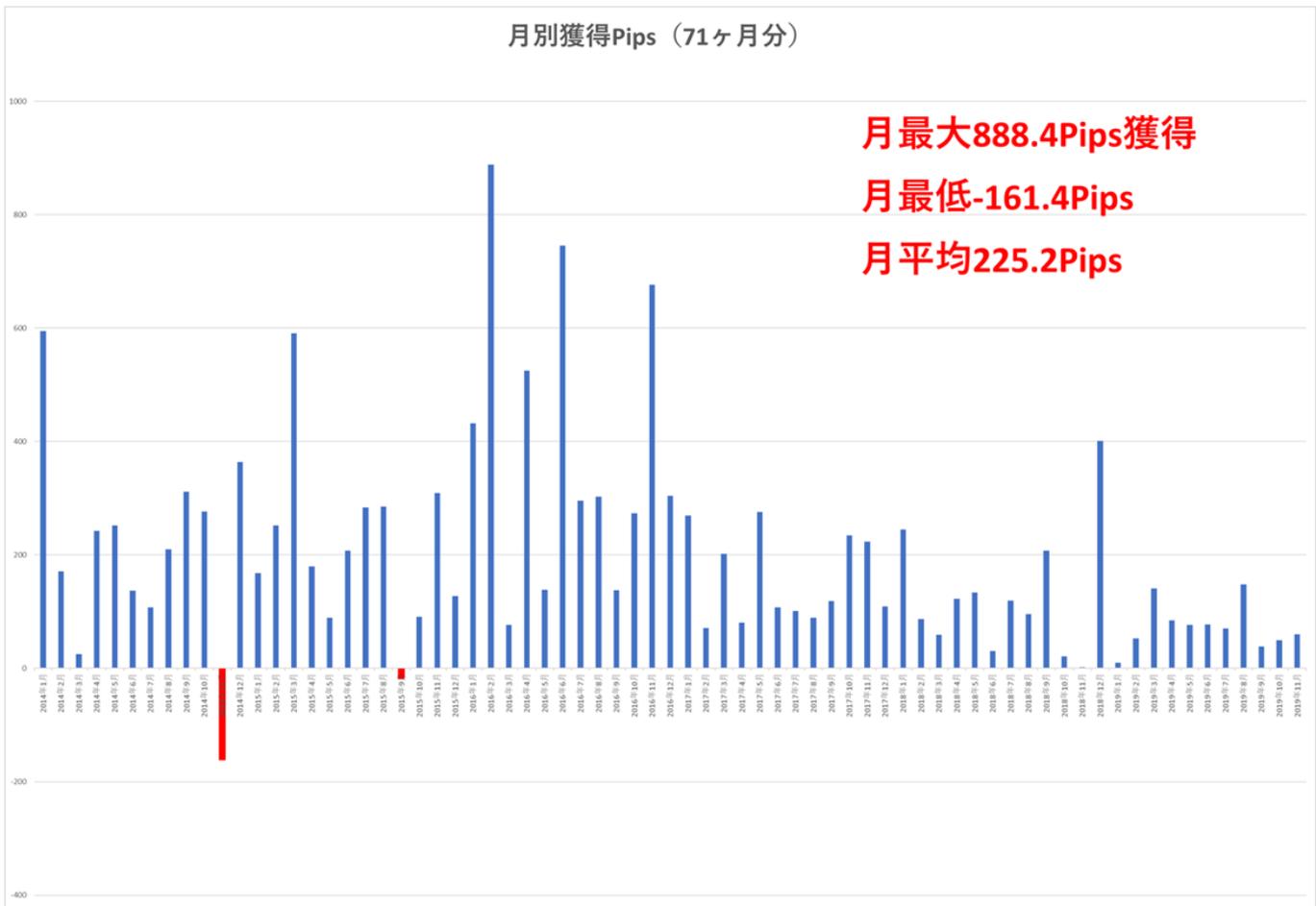
ここからは具体的な手法について解説しますので、しっかり腑に落としながら読み進めて下さい！

まず、手法の結果について。

トレード数：619

436勝183敗

勝率：70.44%



・プロフィットファクター：5.13

(全トレードの期待値：総利益÷総損失)

・連続勝ち回数：20 連勝

・連続負け回数：4 連敗

・全期間での月平均獲得 pips：225.2

これらはデータとして実証済みです。

ちなみに、このデータには入っていませんが、
2020年1月1日から1月13日までに、
ドル円だけで150pips以上獲得しています！！



僕の手法を学べば、こんなトレードが出来るようになるので、
しっかり読み進め、1つ1つ理解して下さいね。

この手法は2020年8月現在も使えています。

続きはフルバージョンで。